

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●東京農工大学連合農学研究科

「体系的博士農学教育の構築」の事例

(具体的に何を実施したのか)

多地点遠隔講義システムを導入・活用し、連合農学研究科を設置する6基幹大学18連合農学研究科構成大学による共通講義科目を課程必修科目として設定し、日本語および英語で開催した(総合農学概論I、II)。また、合同セミナーを必修科目として導入した他、コミュニケーション演習、海外フィールド実習、海外短期集中コースを選択科目として導入した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

全国にある18連合農学研究科構成大学が同一の講義を一斉に開講し、各大学で受講する学生が逐次質問、討論できる体制を構築することによって、講義受講による学習効果を高めた。講義内容の検討や、担当分担などの取り決めには、6基幹大学の研究科長ならびに専任教員が一堂に会し、その内容や運用方法について適宜協議により決定した。合同セミナーは、原則として1泊2日の日程で、専攻講座教員と学生が研究進捗状況やキャリアプランについて議論する機会を設けることにより、多くの教員によるアドバイスや学生同士の研究交流ができる仕組みを作った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

総合農学概論I、II、合同セミナーを必修科目として、またコミュニケーション演習、海外フィールド実習、海外短期集中コースを選択科目として教育課程科目として当該プログラム終了後も本研究科の独自経費により継続する事ができた。18大学の教員による幅広い分野の研究内容を、リアルタイムで質疑応答を交えながら受講できるシステムは、広い視野を持った専門人材の育成にとって、教育効果の高い手法となった。合同セミナーは、原則として博士課程2年次に研究指導を担当する3名の指導教員(そのうち1名は学生が所属する大学とは異なる大学の教員)との密接な研究協議ができるため、博士学位論文をまとめるための指導体制として非常に有効なものであり、教員および参加学生からの評価も高い。